

【別紙】平成31年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立戸塚中学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	・自ら考えよく学ぶ生徒 ・心豊かで思いやりのある生徒 ・心身ともに健やかな生徒
目指す学校像	「落ち着いたと潤いのある学び舎」 創意あふれる教育活動を展開し、保護者・地域に信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	4名
事務局 (教職員)	3名

領域	学 校 自 己 評 価			年 度 評 価 (令 和 元 年 1 2 月 1 7 日 現 在)		
	年 度 目 標			重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	現状と課題	重点目標	具体的方策			
組織運営	・人的リソースは潤沢であるものの、スケールメリットを生かした組織運営が不十分である。教職員の働き方の軽重も十分にバランスがとれたものではない。組織の改編を急ぎ、分掌の責任の明確化が必要である。	○前年度から取り組んできた分掌組織の全面的な改編を実行。 □部の組織を活用した、チェック機能の強化。 △規約集を活用し、組織・規約の改善を行うことで組織力の強化を目指す。	○全面的な組織改編による分掌の責任の明確化。 □部制度の導入による部長の創設。(担当→部長→管理職のチェック体制の強化) △規約集に沿った会議運営等を行い、年間を通じて組織、制度の改善を行う	○組織改編を実施したが、旧態依然とした運営方法の慣れから脱却できずに苦慮した。部会の定期開催ができなかった。 □部長の配置等実施済み。 △規約集の活用が図られている。年間を通じてアップデートしている。	B	・教職員の慣れを変えることが課題。感覚として、分掌部会を開くことはない。生徒数が減少し、教職員数が減少へ向かう中、現在の方式の定着が課題であり、年間行事計画に会議開催日を織り込む。規約集は活用されて、継続的にアップデートしていく。
教育課程	・シラバスの統一や教科指導の細部にわたる分析・改善等が不足。個々の取り組みに任されている。各教科における組織としての取り組みが必要。	○五教科の教科会を時間割の中に組み込み、教科会として全体計画の作成や授業改善を行う。 □評価を含めた学習案内を作成し、指導の質の向上を図る。 △道徳の教科化に全教員が対応できるようにする。	○教科会でデータを分析し次年度用の改善策の構築や全体計画の作成を年内に終了させる。 □全教科で、シラバスの記述すべき内容の統一を図りHPに掲載する。 △副担任も含め、教員全員で道徳の授業を輪番で行い指導する。	○教科会の時間割時間内での実施。話し合いの柱建てにも苦慮する教科もあった。 □統一したシラバス作成に舵を切ることができたが、すべての項目を統一するにはいかなかった。 △ローテーション道徳(担任・副担任に関わらず、教員全員が順番に道徳の授業を行う)を実施	B	・教科会を有効的に、実効性のある会議にできないことが課題。教科会の中で取り上げるべき項目を列挙し、回答締め切りを設定する。シラバスの書式の統一には着手できたが、準備時間が少なく、不一致箇所を残したまま公開。次年度には統一。ローテーション道徳は軌道に乗り、運用中。次年度も継続を検討中。
開かれた学校づくり	・HPの使いづらさや更新の頻度に課題があり、情報発信力に欠けている。また、昨年度からの取り組みで学校に人を集める企画を打ち出したため、今後も継続していく。	○HPの改良を実施し、機能向上を図る。 □授業公開を1日/月実施し、来校者数増加を図る △異校種間の連携を深め、合同の研修会等交流システムの強化を図る。	○HPとメールのリンクを進め、保護者向け配布資料の電子化を進める。 □来校者数昨年度比105%(12月現在)の5200人を目指す △保護者・地域向けのカルチャースクールを開催。小学校・高等学校との連携も進める。	○HPとメールのリンクを進めることができた。 □工事により、グラウンド制限がかり、体育祭時の集客が減少し、5000人に達することができなかったが、前年度比107%の数値まで、回復できた。 △夏季休業中に102名を集める小・中・高の連携した研修会を開催し、授業改善を話し合えた。	B	・HPとメールのリンクは今後も継続して推進。工事終了を機に、来校者数倍増計画を教職員から募り、実施。カルチャースクール、連携した研修会等も教職員からのボトムアッププランを導入し継続。
教職員の資質向上	・教職員の研修意欲が旺盛であるため、その要求に応えるよう、外部への研修、研究発表会、フォーラム等への参加を展開していく。	○外部への研修参加等を積極的に推進し、個々の研修の強化を図る。 □研修の成果を職員で共有する手立てを構築する。 △主体的で対話的な深い学びを地域にある校種を超えた集団で研修する。	○学びプロジェクトへの参加者の倍増。 □教科会、研修会での報告発表を行い、PC内に指定の保存フォルダに保存し共有化を進める。 △小学校・高等学校と連携した独自の研修会の立ち上げる。	○学びプロジェクト参加者は倍増まではいかなかったが、継続して参加、取組ができた □資料保存の電子化は計画まで浸透できなかった。 △小・中・高の戸塚中主催の研修会立ち上げ、実施成功。次年度の研修計画も検討中。	B	・知識構成型ジグソー法の習得から、思考力を育て、伸ばす指導法の研修に軸足を移すことが課題。COREPから学んだことを活用するための教科会の開催に結び付け、会議報告を行う。
施設・設備等の管理	・経年劣化が激しく、修繕と劣化・不具合の速さのバランスを欠いている。先々を見通した計画的な修繕や工事が必要となっている。	○廊下やトイレ等共用箇所と相談室等の計画的な修繕・工事を要望と実施。 □今後計画されている自転車通学に対応できる駐輪場の新たな設置。 △長期計画で聴覚機材(TVモニター等)の計画的な充実。	○廊下のペイント工事により、共用箇所の改善を実施。家庭科準備室の二分化による相談室空間の創設を要望。 □年度内の駐輪場工事実施と体育関連倉庫の新設 △5カ年を目標に、モニターを12台にする。	○経年劣化に修繕の速度が追いついていかない。家庭科準備室の活用により、新たな会議室の創出に成功。 □駐輪場・体育倉庫の工事進捗は順調。 △本年度は新たにモニターを2台購入。2/12台の配置完了。	B	・教職員同士で、営繕作業を進め、劣化速度を鈍らせる。廊下の全面ペイント、体育室の床の全面改修、プールの漏水対応等時期を見誤ると教育活動に支障が出る。教育環境の早急的な改善が待たれるところである。

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 2年 2月 3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○保護者の表情が以前に比べ、明るくなったように感じる。町会の仕事でも戸塚中の保護者がよくサポートしてくれている。学校運営が円滑に行われているのと感じる。	
○生徒と教師がよく関わって欲しいと思う反面、先生方の働き方についても配慮して欲しい。職員間で、帰ってもいいんだよと言うような雰囲気があると良いと思う。(部活動ガイドラインの完全実施の成果や電話の対応時間の検討の話しを受けて)	
○学力向上に今後も努めて欲しい。	
○これからの変わっていく教育に対応できるように準備を進めて欲しい。	
○これまで新体カテストの数値が低かったこと自体が信じられない。部活動の実績と同じように体力もしっかりと付けて欲しい。	
○進路指導も難しい時期(大学の入試改革等の話しを受けて)だと思うが、変わらず、しっかりと進路指導をして欲しい。	
○HPの行事予定に入るときの手間を簡略化して欲しい。できれば、ワンクリックで入れるようにしてもらいたい。使いやすさの向上は、閲覧者にとって大きな選択要素だと思う。	
○HPに部活動の予定表がアップされていることはとても嬉しい。	
○今年度以上に地域との関わりを増やして欲しい。もっと学校からコミュニティースクールの話発信してもらおうと良いのではないかなと思う。	
○時代に沿った教職員の資質向上を図る必要を感じる。これまでの社会通念上の資質のみに限らず、法に基づいた資質の向上も認識させるべき。	
○今年度先生たちの意識改革(生徒を怒鳴り散らすような指導を改める)が図られたことはとても素晴らしい。成果は直ぐには分からないと思うが、もう少し後には見えてくるのではないかなと思う。	
○自分の息子が在学していたときに比べ、確かに大声で怒鳴り散らすような先生がいなくなったと感じていたところである。	
○トイレ(特に男子)個室は入りづらい。	
○臭い、汚いがあったが、改善された。	
○施設設備がいかに古く、古すぎる。トイレの入り口のドアがない等、大人だと使えないような施設を子どもに使わせている現状を改善して欲しい。	
○(駐輪場に予算がかかったのでしょうか?)校舎内の廊下のペイントができなくなってしまったことが残念で仕方ない。古くてきれいな環境で子どもたちを学ばせてあげたいものである。近隣の学校と戸塚中の違いが指導の身身ではなく、施設環境から語られることが残念だ。	